

施策評価（令和8年度）

戦略5 健康・医療・福祉戦略			
目指す姿3 高齢者と障害者の暮らしを支える体制の強化			
幹事部局名	健康福祉部	担当課名	長寿社会課
評価者	健康福祉部長	評価確定日	令和8年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

高齢者や障害者が、日々の暮らしの中で必要なサービスや支援を受けながら、住み慣れた地域において生き生きと暮らし続けることができる社会の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 介護サービス事業所認証評価制度 による新規認証事業者数(事業者)	目標			10	10	10	10	40.0%	0	
		実績	10	4	6	8	10	4			
	出典: 県調べ	達成率			60.0%	80.0%	100.0%	40.0%			
②	【施策の方向性②】 介護保険施設の入所定員数(人)	目標			13,528	13,597	13,626	13,655	99.1%	3	
		実績	13,181	13,239	13,438	13,470	13,421	13,529			
	出典: 県調べ	達成率			99.3%	99.1%	98.5%	99.1%			
③	【施策の方向性③】 医療・介護関係者の情報共有に取り 組んでいる市町村数(市町村)	目標			18	20	22	25	100.0%	4	
		実績	13	13	19	20	22	25			
	出典: 県調べ	達成率			105.6%	100.0%	100.0%	100.0%			
④	【施策の方向性④】 「通いの場」への参加率(%)	目標			5.9	6.6	7.3	8.0		n	令和8 年9月 判明予 定
		実績	4.2	4.6	(5.6)	(6.6)	(5.9)				
	出典: 県調べ	達成率			94.9%	100.0%	80.8%				
⑤	【施策の方向性⑤】 「チームオレンジ」を設置している 市町村数(市町村)	目標			9	12	15	25	64.0%	0	
		実績	—	1	4	5	7	16			
	出典: 県「認知症施策実施状況調査」	達成率			44.4%	41.7%	46.7%	64.0%			
⑥	【施策の方向性⑥】 障害者サポーター養成講座の講師 を配置している市町村数(市町村)	目標			18	21	23	25	92.0%	3	
		実績	—	15	13	18	22	23			
	出典: 県調べ	達成率			72.2%	85.7%	95.7%	92.0%			

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq$ 100% 3点: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 2点: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%
 1点: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
2.00 (e相当)	4点 × 1個 = 4点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 2個 = 6点 0点 × 2個 = 0点
	2点 × 0個 = 0点
	合計 10点 ÷ 5個(判明済み指標) = 2.00

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
 d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-2 経過検証指標の状況と分析

	指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	備考
①	【施策の方向性①】 介護施設等の介護職員数(人) 出典:厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」	実績	22,602	23,283	(22,878)	(22,672)	(21,835)	-	令和9年3月判明予定
分析	- 令和6年度の介護施設等の介護職員数は21,835人。生産年齢人口の減少等により、引き続き減少していくものと見込まれる。 - 未経験者等の介護分野への参入と介護従事者の職場定着に向け、介護の職場や仕事への理解を深めるための研修や体験、介護職員の処遇改善等を支援する事業の実施や介護の仕事の魅力発信などに取り組んでいるものの、他産業と比較して賃金が低く、介護業界に対する重労働といったイメージも根強くあり、若い世代をはじめとした新規参入が進んでいない。								

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 介護・福祉人材の確保・育成と労働環境の改善の促進】 - 中学生を対象とした福祉の仕事セミナーを開催したほか、中高生等を対象とした介護施設等での職場体験の機会の提供を通じて、若者の福祉・介護職への意識を涵養した。(中学校における福祉の仕事セミナー参加者121人<△24人>、介護施設等での職場体験参加者24人<△47人>)。 - あきた介護業務「カイゼン」サポートセンターを運営し、介護テクノロジーの導入経費の助成を実施した(151件)ほか、カスタマーハラスメント等の課題を抱える事業所へきめ細かな支援を行った。これにより、介護現場における負担の軽減や職場環境の改善を促進した。	
【施策の方向性② 介護・福祉基盤の整備】 令和5年7月の大雨による浸水等の被害を受けた高齢者施設に対し、移転改築に要する経費について引き続き支援を行った結果、令和7年10月に竣工し、移転が完了した(介護老人保健施設1か所)。	
【施策の方向性③ 医療・介護・福祉の連携の促進】 在宅医療推進センター運営事業において、アドバンスケアプランニングや在宅看取りの普及啓発等に係る研修会の開催等に要する経費を助成するとともに、医療・介護連携推進協議会を設置し、全体会議や各支部会で多職種の連携促進を図った。	
【施策の方向性④ 高齢者の自立支援と介護予防・重度化防止の推進】 自立支援型地域ケア会議研修及び行政職員向けセミナー(延べ参加139名)、生活支援コーディネーター研修及び伴走支援活動(延べ参加173名)、市町村が実施するケア会議への専門職派遣(延べ15名)等、市町村の取組を支援する事業を行った。	
【施策の方向性⑤ 認知症の人と家族を地域で支える体制づくり】 - 認知症サポーター養成の講師を担うキャラバン・メイト養成研修(参加40名)や、チームオレンジ未設置市町村を対象としたチームオレンジ見学会の開催によりチームオレンジの設置を推進し、新たに9市町村でチームオレンジが設置された。 「認知症施策推進ネットワーク会議」において、家族会、県医師会、認知症疾患医療センター、弁護士等多様なメンバーで認知症の人やその家族への支援体制の構築など県全体の認知症施策を推進するための協議を行い、令和8年度から令和12年度までを計画期間とする「秋田県認知症施策推進計画」を新たに策定した。	
【施策の方向性⑥ 障害者の地域生活と社会参加に向けた環境づくり】 障害者サポーター養成講座講師育成研修をオンラインで実施し、障害者への配慮について理解を深め、障害者サポーター養成講座の講師としてスキルアップを図った。また、未配置市町村に対してヒアリングを実施し、受講しやすいよう動画を作成のうえオンデマンド研修を実施した。	

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
e	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.00で「e相当」であることから、総合評価は「e」とする。
	【定性的評価として考慮した点】

4 県民意識調査の結果

質問文		高齢者や障害のある方が、必要なサービスや支援を受けながら、住み慣れた地域で安心して生活している。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	満足度					
	肯定的意見	14.2%	11.1%	10.9%		
	十分 (5点)	2.0%	1.8%	2.3%		
	おおむね十分 (4点)	12.2%	9.3%	8.6%		
	ふつう (3点)	44.4%	35.8%	36.9%		
	否定的意見	30.3%	41.8%	40.6%		
	やや不十分 (2点)	18.4%	25.4%	25.8%		
	不十分 (1点)	11.9%	16.4%	14.8%		
	わからない・無回答	11.1%	11.3%	11.6%		
	平均点	2.71	2.49	2.52		

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

※2026(R8)年度は2025(R7)年度以前と質問内容が異なるため、結果は記載していない。

参考:2026(R8)年度県民意識調査の結果

質問文		高齢者や障害のある方が、必要なサービスや支援を受けながら、住み慣れた地域で安心して生活している				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	満足度					
	5点				3.8%	
	4点				16.3%	
	3点				37.9%	
	2点				22.0%	
	1点				12.5%	
	わからない・無回答				7.5%	
	平均点				2.75	
質問文		障害や難病への県民の理解が進んでいる				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	満足度					
	5点				1.4%	
	4点				7.8%	
	3点				33.2%	
	2点				25.3%	
	1点				13.3%	
	わからない・無回答				19.0%	
	平均点				2.49	

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

※2026(R8)年度は2025(R7)年度以前と質問内容が異なるため、2025(R7)年度以前の結果は記載していない。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 生産年齢人口の減少等により、介護職員が今後も不足することが見込まれている。	○ 指標として設定している「介護サービス事業所認証評価制度による新規認証事業者数」について、4年間を通算した目標への到達はできなかったが、令和7年度に創設した上位のプラチナ認証を含めた周知・PRを行い、広く認知度を高めるとともに、取得の働きかけを積極的に行うことで認証取得事業者を増やし、介護職員の働きやすい職場づくりや処遇改善を図る。併せて、若者や中高年、外国人を含む多様な人材の新規参入の促進、各層に対応した研修の充実による資質の向上、介護テクノロジーの導入による労働環境の改善・業務の効率化など、総合的な確保対策を推進する。
②	○ 夏季の大雨や冬季の大雪など、災害が激甚化しており、今後も県内の介護施設が被災する恐れがある。	○ 4年間を通じた支援は4件となった。今後も被災した施設等に対しては、介護サービス提供体制を適切に確保する観点から、国との協議を速やかに行い、必要な支援を行っていく。
③	○ 生産年齢人口の減少が顕著となり、2040年頃に高齢者人口と生産年齢人口の割合が同程度となることが見込まれ、医療・介護・福祉等専門職の確保が困難になることが懸念される。	○ 介護職員数は、令和2年度をピークに、令和6年まで緩やかな減少で推移している。引き続き、先進事例の情報提供や、多職種連携等に係る研修会の開催、広域連携等に係る調整、医療従事者との関係づくりなどの市町村支援を行っていくほか、テクノロジーを活用した課題解決に取り組み、地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの深化・促進を図っていく。
④	○ 高齢者の地域での生活を多職種が連携して支える「自立支援型地域ケア会議」が全県に普及しつつあるものの、地域によって実施状況にばらつきが生じている。また、介護予防の推進を図るうえで、高齢者の「通いの場」への参加率が伸び悩んでいる。	○ 市町村や地域包括支援センター職員、介護支援専門員等を対象とした地域ケア会議実践研修や、市町村の自立支援型地域ケア会議へのアドバイザー派遣、地域リハビリテーション支援体制の充実等により、市町村支援に取り組む。また、通いの場や地域支え合い事業等の地域資源開発を行う「生活支援コーディネーター」を対象とした研修や交流会の開催等に継続して取り組むほか、通いの場への参加率の向上を図るため、eスポーツ導入モデルの構築などを通じて参加しやすい環境づくりを行っていく。
⑤	○ 国は、令和7年までに全ての市町村でチームオレンジを立ち上げることを目標としていたが、令和7年度末で16市町村24チームとなっている。	○ 4年間で全市町村にチームオレンジを設置するという国の方針に沿った目標は達成できなかったが、令和7年度に設置市町村数が大きく伸び、これまでの取組の効果が出ている。チームオレンジの立ち上げ等を担うオレンジコーディネーター研修等で設置の意義やノウハウを引き続き提供し、全市町村への設置を目指していく。また、令和7年度から実施した、未設置市町村を対象とする県内チームオレンジの見学会を継続し、粘り強く取組の横展開を図っていく。
⑥	○ 障害者サポーターが未配置の市町村があるため、県では令和2年度から障害者サポーター養成講座の講師育成研修を開催するなどして、間接的に障害者サポーターの養成に努めてきたが、25市町村のうち2市町が研修に参加しておらず、講師が配置されていない。	○ 講師未配置の市町を解消するため、引き続きオンラインやオンデマンド形式など、受講しやすい形で障害者サポーター養成講座講師育成研修を実施していく。また、障害者サポーター制度を周知するためのグッズを製作、市町村に配布することによって、市町村による障害者サポーター養成を後押ししていく。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「e」をもって妥当とする。